

投稿規程

1 ジャンルと原稿量

1 ページあたり 2,000 字です。

図表類を含む場合は、その面積に相当する字数を減じます。原稿執筆に際しては、図表類を含めた文字数を厳守してください。

図表には必ず(図1)あるいは(写真1)のように番号を振り、本文中に図や写真が該当する箇所を示してください。

※ジャンルによる基本ページ数は以下の通りですが、編集部からページ数の削減をお願いする場合があります。

特別講演やシンポジウムの講演記録 原則として制限なし

論文・論考 4～6 ページ

書評と新刊紹介 2 ページ

書評：1点、1,300 字 新刊紹介：4点、各 300 字

研究ノート 2～3 ページ

技術ノート 2 ページ

作品解説 3～4 ページ

エッセイ 1 ページ

大会参加報告(ルポ) 1～2 ページ

作品紹介 1 ページ/1人1点

注意事項：A4縦にレイアウトをするものとし、レイアウト指定表を必ず添付すること。

注意事項：モノクロかカラーかの区別を明示すること。

2 文体と表記

文体

巻頭言、記念講演、シンポジウムの記録などには、「です、ます」調を用います。学術論文、技術ノート、作品解説、書評などには「である」調を、そしてエッセイには「である」調または「だ調」を基本としますが、著者の希望を考慮します。

表記

『記者ハンドブック』(共同通信社)を基準に編集部で統一します。当て字は使用できません(学術的な表記についてはこの規定によりません)。また、作者特有の表現を用いるエッセイの場合は、編集部に出してください。

3 作品の投稿方法

投稿原稿・作品整理カードに必要事項を記入のうえ、事務局へ、期日までに FAX または郵送で投稿予約をしてください。その後、原稿・作品の投稿期限までに提出してください。レイアウトはレイアウト用紙を参照してください。

■作品をデータで投稿する場合

jpg データ、あるいは t i f データで保存してください。保存の際、4 色カラーの場合は(CMYK)にし、完全データとしてください。モノクロの場合は、グレースケールもしくはモノクロ(2階調)にしてください。

解像度は作品の大きさ(A4縦紙面にレイアウト可能なサイズを100%とする)で、400dpi以上。なお、作者責任においてデータを作成してください。印刷用データは作者提供のデータを基に制作いたします。

■作品現物を投稿する場合

スキャニング、複写撮影などを行います。その際、簡易校正(紙面レイアウト確認のために出す校正)以外に、色校正を要求される場合は実費請求をいたします。

※学会誌印刷および用紙は、作品集や図録のように美術品専門誌の表現精度、画像解像度、発色性を確保したものではありません。どちらの方法で投稿される場合でも、その旨、ご了承ください。

4 投稿制限

学会誌をできるだけ多くの会員に開放するために、原則として1会員が投稿できる作品・原稿は、ジャンルを問わず1号につき1点とします。ただし、編集委員会が依頼した場合はこの限りではありません。

5 掲載の決定手続き

論文

編集委員会による査読をおこない、採否を決定します。ただし、採用する場合でも、査読者の指摘する個所の修正が必要です。修正が期限内に行われない場合は、不採用となります。

その他の原稿

査読はありません。しかし、内容が学会誌に相応しくないもの(私的な心象を日記風に綴ったエッセイや明らかに間違いを含んだ技術ノートなど)、および不適切な表現(第三者に対する誹謗中傷など)を含んだものは、編集委員会の判断で、原稿の修正を求めるか、不採用とします。

作品 編集委員会で採否を判断します。

6 原稿・作品の提出手順と期限および投稿料

第5号投稿の予約

ジャンルと内容の概略および原稿量(文字数と図版のサイズと点数)または作品のサイズを、2011年8月1日(日)までに、事務センターにご連絡ください。

投稿料

作品およびカラーページへの投稿料=2万円程度/1頁

エッセイ・論文(カラー以外のテキスト中心)=5000円/1頁

原稿の提出期日

下記の提出方法に従って、2011年9月1日(水)必着で、提出してください。

7 提出方法

データをインターネットで送付すると文字化けなどのトラブルが生じる危険性が高いので、必ず、データをCD、MO、FDなどに焼き付けてください。そして、印字した完全原稿と一緒に、宅急便か速達(または内容証明付郵便)で送付してください。

その他の注意

文字データと画像データは、必ず、別のファイルにしてください。本文はテキストデータにしてください。なお、文字化けを防ぐために、本文の漢字にルビは振らないで、該当文字の後ろに括弧書きしてください。また、脚注および図表類の説明文は、本文に組み込まずに、別紙に書いてください。

イラストレーターなどのアプリケーションを使用した場合、フォントにはアウトラインをかけてください。

8 原稿の校正

著者による校正は初稿のみとし、再校は編集部でおこないます。なお、別刷(抜刷)の注文は、事務局から受注受付のお知らせをいたします。

9 原稿提出先

ピンホール写真芸術学会 事務センター 合津文雄
〒565-0834 大阪府吹田市五月が丘北 10-10-301
TEL 06-6876-1901
FAX 06-6876-1901

投稿原稿・作品整理カード

投稿原稿・作品の概要		記事 入務 局	20 年 , No.	
発送：20 年 月 日			受付：20 年 月 日	
連絡責任者 氏名・住所		〒 電話 Fax email		
著者名	漢字	(楷書でお書きください)		
	ローマ字	(活字体でお書きください)		
表題	和文	(楷書でお書きください)		
	欧文	(活字体でお書きください)		
種別 (○でかこむ)		論文 総説 技術ノート 書評 エッセイ 作品 追悼		
原稿分量	本文：和文 欧文 / 文字数		図版 (Plate) 枚	
	図 (Figure) 枚		Abstract 枚	
	表 (Table) 枚		説明 (Caption) 枚 / 和文要旨 枚	
作品データ	作者名	使用機材		
	画題	露光・他	孔径 mm	露光時間 分
	撮影日	フィルム		
	メモ (200 文字程度)			
制限ページを超過した場合の処置		1 超過分の費用を負担するから、このまま掲載を望む 2 制限ページ内におさめたいから返送を望む		
その他の希望				

※投稿原稿・作品にはすべてこのカードをコピーしてつけてください
 ※作品は、別紙レイアウト用紙を参照のうえ、レイアウト指定をつけてください。
 1 ページ文字数 2400 文字以内、写真、図版の入る場合は、そのスペース分の文字数を減じてください。

(レイアウト用紙)

<p>枠外は余白部分です。枠内に作品が収まるようにレイアウトしてください。 横幅 178.75 ミリ×縦 260.06 ミリ (データ部分は作品には使えません。データ部分が大きくなれば、作品は小さくレイアウトしてください) 縦に細長い作品の場合は、データは縦置きにしますので、260.06 ミリの縦が使えます。 ただし、作品とデータとの間は、最低でも 5 ミリは空きを入れます。</p>	
幅：178.75 ミリ	
縦：260.06 ミリ	
作者 画題 撮影時 場所 使用機材 フィルム 露光・他 孔径 mm / 露光時間 秒(分)	■メモ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 撮影・作品に関するデータが入ります。 項目に記入してください。 </div>

編集後記

ピンホール写真芸術学会誌第4号をお届けします。

本号では2010年6月に福岡県朝倉市「共星の里」で開催されたピンホール・フォトフェスティバル2010 in 九州の報告を充実させました。POW (Put On the Wall)セッションは、出品作家による臨場感あふれる作品解説です。梅原賢一郎さんによるエッセイ第2弾とともに、会員の作品制作に多くの刺激と示唆を与えることを期待しています。シンポジウム第二部「ピンホールにスローライフをみる」のコーディネーター山川建夫さんと実行委員の長野良市さんには、本フェスティバルの参加体験をもとにしたエッセイを書いていただきました。二つのシンポジウム記録と合わせてお読みください。

本号の新しい試みとして、いくつかの作品に讃をつけて掲載しました。作品を見てから讃を読み、讃を読んでから作品を見れば、さまざまな想いが心中に浮かんでくると思います。讃をお願いした羽生清（意匠研究家）、松生歩（日本画家）、やまなみ さとあき（本名田口章子、歌舞伎研究家）さんおよび鎌田東二（宗教学者）さんは、京都造形芸術大学教授および京都大学こころの未来研究センター教授です。この試みは次号につなげたいと考えています。ただし、讃をつける作品の選択と人選は編集委員会で行います。

前号に続いて、ピンホール写真の理論と撮影技法を扱った記事を3本掲載しました。本誌第2号で紹介されたゾーンプレート（47頁）に関する理論と撮影の報告が、本学会の活動の幅を広げることを願っています。

前号でも少し触れましたように、本学会誌は財政難の下、鈴木芳康会長と編集事務担当者の多大な努力で刊行していますが、なんとか第5号の刊行の目途をつけることができました。下記のコメントを参照した上で、次号用の作品とを原稿ご投稿ください。

1 毎号32ページをカラー印刷しています。掲載する作品数によって残るカラー頁数が変わります。カラー頁に割当てる大会報告や論文などは編集委員会で選択します。

2 本学会誌は、すべての会員に開かれています。ピンホール写真の専門家や研究者では持ちえない自由な発想から生まれた大会見聞録やフォトエッセイなどの原稿を歓迎します。

3 本学会誌は本号も含めて既に4号発行され、ピンホール写真の理論や技法について少なからぬ情報が蓄積されています。論文や技術ノートを作成される場合は、公表された論文や技術ノートなどを積極的に引用して、先人の業績を尊重してください。また、理論や技法に関する誌上討論は歓迎しますが、他説を批判したり否定したりする場合は、十分なデータを明確に示したうえで、論拠を丁寧に説明してください。

4 POWセッションでは作家みずからが技術的な工夫を語っています。みなさまもカメラ自体や撮影法、被写体の選び方などについて人知れぬ工夫を凝らしておられると思います。そうした工夫を、短い文章でも結構ですから、編集部にお知らせください。また、本誌に掲載されている作品について作者に聞いてみたい技術的な質問があれば、文章にして編集部にお送りください。一定の分量が溜まったところで、「ピンホール写真Q & A」というような特集を組んでみたいと考えています。

5 投稿規定にあるように、すべての原稿の文字表記は編集部で統一します。その際、現代仮名遣いを原則とし、当て字は使用しません。投稿希望者は、改訂された投稿規定と本誌のバックナンバーをよく参照してください。

6 出版経費を削減するために総ページ数を一定の範囲内に収める必要があります。そのため、編集委員会でそれぞれの原稿に割振る頁数を検討し、必要な場合は文字数や図表類の削減および図表類の縮小を依頼することがあります。前もってご了承ください。

7 前号でもお願いしましたが、学会を活性化し財政を健全化するために、是非とも新会員の勧誘にご協力ください。なお、地域でのピンホール写真教室や展覧会、会員による講演会などの開催希望があれば、事務局にご相談ください。